



工業地域の職業科の計画について

長谷川 淳

「桶屋はどのようにして繁昌するか」という問題を設定するとすれば、この問題に対する解答はそれぞれの立場によつていろいろのものが得られるであろう。桶製作技術者乃至木工業者その他の技術者は、先ず優れた技術をもつて優れた製品を製作することを考えるであろう。そのためには桶製作の技能を身につけると、木材や竹の性質・工具・工作法等に関する技術的知識を習得すること、桶の水に対する緊密性、耐水性、桶の使用法、木製以外の容器との性能の比較等について知ることが必要である。販賣を業とする人は、よい品物をできるだけ安く仕入れ適正な値段で数多く賣ることを考えるであろう。原價の見積りの方法や宣傳廣告の方法などをよく理解することが必要になる。事業不振の製作者はいろいろなことを考えるかも知れない。北風がふくことを願つたり、めくらが多くなることを考えたりするであろう。或はまた成金が多くなり藝者屋が繁昌することを考えるかも知れない。この頭書の問題も考えようによつては限りないひろがりをもつた問題である。

「桶屋はどのようにして繁昌するか」とか「北風が吹けばどうなるか」などと

いう單元をつくつて、理科の学習・保健衛生の指導、めくらに対する職業指導、音楽の学習、猫の飼いほう、皮なめし、等々から木材の加工まで学習させるとしたら、想像力のさかんな教育者にとつては教育計画の作成のためには極めて興味のある問題であるとしても、生徒にとつては混乱を來すこと以外の何物でもない。「中学校における職業家庭科について」が発表されて以來、各地においてそれぞれの地域の職業・家庭科の教育計画の作成が熱心に研究されたことはまことに喜ばしいことであるが、「通牒」の中の教育計画の例の枠に忠実に従おうとしてかなり無理な單元を設定しているように見うけられるものもないでもない。もしこの枠に従うとしても、單元のとり方を適切にすればそれほど不自然でもなくなる。單元の数を気にしたり、單元の名称を気にしたりする結果、「しりとり」式に、わすかばかり関連をもつた事柄が連めんと続いて発展して行くようになる。このような計画に生徒を従わせ導いて行くとすれば、当初の目標が見失われてしまい、技能や知識の達成どころか、適性の発見もできず、空想能力の旺盛な無能力者ができ上るだけである。

職業科の経営
 長谷川 淳
 一九五〇年四月
 一
 五
 五
 〇

生徒の経験を重要視し、いろいろな仕事をトライアウトし、適性の発見に役立たせることを目的とした「中学校の職業・家庭科」の計画は、これらの目的の達成の容易なように学習内容を整理し、まとまりをもつた学習単位をもつて構成しなければならない。殊に将来工業の各分野で働く可能性の多い工業地帯の生徒の学習のためには、「通牒」に示された材料「仕事の例」はあまりに多方面にわたりすぎ、必要最低基準をはるかに上まわつて居り、それに選択にまようように思われる。仕事の例は、将来の産業の水準とか状態とかを予想した上での全体的な計画から導かれた必要最少基準ではなく、それぞれの産業の分野の構成共和国が平等に一票づつ携えて登場した連合体である。従つてこれらを材料にして課程を編成する場合は、かなりのエリミネーションと排列換えを行い、学習の便宜と職業の實際を考慮してまとまりをもたせなければならない。

職業の課程を構成する場合に先ず第一に行わなければならない手続は職業分析であると一般に言われている。この手続は特に工業を主とした課程に必要である。この手続によつて工業の分野の仕事を分析し、技能（要素作業）と関係知識（技術的知識・一般知識、職業指導的知識）の項目を析出し、次に、この要素作業の中で将来実際の職業に就いてから習得した方が効果的であるようなものを省き、また、課程の目的やその長さを考えて不必要と思うものを省く。残つたものを排列換えする。その場合に考慮すべき

基準としては、第一に要素作業の行われる頻度数に従う。これが職業分析の最も重要なポイントで、ミナム・エッセンシャルズを求める上にも重要な点である。要素作業の行われる順序に必ずしも実際の職業で行われる順序に従う必要はないと言われているが、ある職業の中の一つの部分で、その中では大体実際の職業の順序と要素作業の学習の順序とが一致できるような部分（ブロック）に分け、そのブロックを一まとまりとして指導する。排列のその他の基準としては学習の難易、重要度、利用施設の状態その他があげられている。工業的な課程ではこのブロックはブロックをいくつかに細分したものを單元として取扱つているのが普通である。

このようなブロック——ユニット——システムを採用すれば「通牒」の中項目なり小項目がそのまま單元になり得る。そうすれば、もし「教育計画の例」が適当であるとすれば、それに合わせた教育計画なり単元の設定なりが無理なくできるわけである。単元の名称を工夫したり、各単元の学校内容を配分したり、時間の割当の計算に苦勞したりすることが少くなる。「どのようにして……するか」とか「明るい……生活」とかいう言葉が多く使われているようであるが、教師の間の計画についての折角の苦心も生活の学習の効果の点からみてあまり報いられないのではないかと思う。工作与農耕作業とどのように結びつけるかをそんなに苦心する必要もない。職業分析をして適当なエリミネーションを行い、適切な指導

の組織を得れば、無理なフージョンを行う必要はない。アメリカの一例を見ても、中学校の工業の中に農業という一單元を設けてあるものもあるし、ソ連の総合技術教育の計画でも「農業の基本」という部分が特設されてある。

職業分析の技術を用い、ブロック——ユニット——システムをとるとすれば、各ブロックの中で必要とする要素作業を析出し、更にこの要素作業を行うのに必要な技術的知識の項目、その作業に直接関連する一般的知識・職業指導的知識の項目を析出し、それぞれの作業に関連させてこれら関係知識の項目を指導するのが普通である。しかし、現在の日本のように、学校の設備が極めて不完全であり、また作業の経験を得るような施設や環境の乏しい場合は、作業に直接関連した関係知識だけでなくその発展としてこの関係知識の領域を拡張して指導することが望ましい。殊に日本の工業の現状に即応するのではなく、これを科学的に高め発展させるためには、技術的知識を理科との関連において組織的に指導することが必要になる。労務者の職場配置を工業の生産計画に適合させるためには、一般的知識や職業指導的知識を組織的に指導することが必要になる。また職業の学習に専らするためにそれへの導入としての関係知識を作業に入る前に組織的に指導することも必要になる。この考をおし進めて行けば、「社会経済的な知識・理解」のもつものは独立の指導単位となり得ることになる。

工業地域における職業科の目的から考

え、上述の論をおし進めて行けば、生徒の生活を中心としたと言われる、既述な多くの要素を融合した単元の設定がそれほど意味のあるものではなくなる。ある技能なり知識なりを明確に集中的に習得できるような、そして将来の職業に直接つながるような、職業のブロック及びあるシステムを持つた関係知識のブロックを單元として構成して指導することが学習効果を上げる上に効果的である。このような單元構成のためには、「通牒」の教育計画の例だけで十分である。多少の修正は実施に当つて行えばよい。もし生活中心の單元を構成するとすれば、それら単元の学習の総括として「教育計画の例」が作成されなければならない。後の場合その手続が逆になつて居るために「明るい……生活」が営まれたり、「宣伝広告」から自動車を乗りまわしその分析組立をする忙がしい学習活動をしたり、北風が吹くことを念じたりしなければならない。

「中学校における職業・家庭科」の計画の今後の仕事は、各小項目についての技能（要素作業）の分析と技術に関する知識理解、社会経済的な知識理解の分析と、その指導順序を求め、具体的な計画作成のための細かい素材を提供することである。形の上でよく整つた形よりも、教育の現場の貴重な経験を生かした実施の容易な具体的な計画こそ優れたものであることは言うまでもない。

—文部事務官—